

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------|------------|----------|
| 事業所番号 | 4270300462 | | |
| 法人名 | 株式会社 あおぞら福祉会 | | |
| 事業所名 | グループホームあおぞら | | |
| 所在地 | 島原市六ツ木町甲807番地1 | | |
| 自己評価作成日 | 令和5年10月12日 | 評価結果市町村受理日 | 令和6年2月6日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|---------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構 |
| 所在地 | 長崎県島原市南柏野町3118-1 |
| 訪問調査日 | 令和6年1月24日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームあおぞらでは、利用者のその日その時の気持ちをくみ取って安心して暮らせるように支援をしている。例えば、買い物に行きたい、お墓参りに行きたい、趣味の裁縫をしたいなど状況や要望に応じた柔軟な支援を心掛けている。また、平成元年11月に新しい建物へ移転し、施設の窓からは眉山や海、施設周辺には畑や花壇が見渡すことができ自然豊かである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの近隣には同法人が運営する小規模多機能型介護施設、住宅型有料老人ホームのほか、訪問看護事業所もあり、地域の福祉や医療のニーズに応えている。当ホームは島原市の高台の住宅街にあり、聳え立つ普賢岳や眉山を望むことができる。代表が自ら入居者の病院の受診支援や、外出支援、買い物等、直接支援に関わり、職員はその姿を見ながら入居者への良質な支援の提供と風通しの良い上下関係や職員間の関係性の構築に繋がると共に、職員間の情報共有の徹底を図り、職員教育にも余念がないことが窺える。入居者の誕生会には主任の職員が得意とする手作りケーキを提供したり、行事に因んだ食事を提供する等、入居者本位の支援に努められており、今後も大いに期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

(別紙2-2)

自己評価および外部評価結果

ユニット名

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 普段から廊下や玄関など分かりやすい所に掲示している。また、毎朝の朝礼で唱和し、再確認することによって理念をみんなで共有でき実践にもつなげている。 | 朝礼時に理念を唱和し、職員一人ひとりが、さわやかな笑顔で支援に臨むことを念頭に、職員も入居者の喜怒哀楽を共感し、また、入居者がやってみたいこと、望まれることを実現できるよう支援に努めている。そのためには、職員が確かな知識・技術を身につけることも重要と捉えて理念に沿った支援の実践に努めている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | コロナ禍で以前より地域の方との関わりが減ってしまったが、また地域の方が慰問(浄源寺の住職によるコンサート、熊野神社の御神輿など)に来て頂き交流する機会が来ている。 | コロナ禍により以前のような地域との交流は減少したが、これまで繋がりが深かった寺院の住職や、職員が所属する合唱グループのコンサートを昨年12月にホームで開催した。今後、小中学校の職場体験、実習生の受け入れ等を再開し、地域との日常的な交流の機会を増やす意向である。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 感染症対策として手指消毒、マスク着用、検温を行った上で、いつでも施設見学やボランティアの受け入れをしており、認知症を理解して頂けるように取り組んでいる。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に一度、運営推進会議を開催し利用者へのサービス状況や日々の取り組みについての報告や話し合いをしてサービスの向上に努めている。 | 運営推進会議は島原市保健健康課職員、元地域消防団副団長、施設長、同法人他施設所長、家族兼職員が構成メンバーである。会議資料を基に施設長より活動内容、研修参加状況、コロナ感染症状況等の報告と説明を行い、メンバーからの質疑応答による内容や、出された意見等をサービス向上に活かすよう取り組んでいる。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 市町村関係者と日頃から情報交換を行い、より良いサービスの提供が出来るように協力関係を築くよう取り組んでいる。 | 運営推進会議メンバーの市職員との意見交換や、生活保護受給者には生活福祉事務所保護班の職員と関わり持っている。代表が「SOSおかえりネットワーク」の役員を務め、地域包括支援センターと連携を図っている。日常生活支援総合事業の金銭管理を利用している入居者については、社会福祉協議会との関わりを持つ等、関係機関と協力体制を築いている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 夜間以外は玄関・窓は施錠していない。安全面で足元センサーを使用している利用者があるが身体拘束をしないよう、職員間での声掛けやミーティングで話し合ったり、研修にて正しい知識と理解を持ち、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 | 身体拘束に関する研修を年2回実施し、資料を配布して職員が身体拘束について正しい知識を修得し理解を深められるよう取り組んでいる。研修後は、職員が研修内容のまとめや感想の記録を残し、振り返りを行っている。身体拘束委員会は運営推進会議後に開催している。 | 令和3年度介護報酬改定に係る基準等の変更に伴う虐待の防止のための措置に関する事項を踏まえ、今後、運営規程に「虐待の防止のための措置に関する事項」を明記し職員や家族に周知し取り組むことを期待する。 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | コロナ禍だった為、リモート研修や施設内研修(ビデオや資料を使った)を行い、正しい知識を持ち虐待が見過ごされることがないように日頃から観察し、職員間でも助言できるような人間観兼を築くことで事前防止に努めている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 制度について学ぶ機会を設けていない為、知識がない。または知識が浅い為、現場でも活用できるように施設内研修の開催など今後の課題である。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約の際は、利用者本人、御家族の方にも施設見学して頂き、十分な説明を行い、理解して納得して頂けるように努めている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者の日々の支援の中で意見や要望を把握している。御家族には担当職員が近況をまとめたものの報告やイベントの案内を面会時に積極的にコミュニケーションを図り、御家族も意見を出しやすい機会を設けている。 | 職員とのコミュニケーションを通じて入居者の意見や要望を把握している。家族が面会に訪れた際や電話連絡時に意見や要望を聞き取るようにしている。把握した内容は記録に残し、職員間で情報を共有している。ホーム用のLINEを整備し、家族へ記念写真やリアルタイムで入居者の様子を配信する等、取り組んでいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎朝の朝礼や月一回の職員ミーティングの中で利用者の状態報告や意見、提案をできる機会を設けている。また、連絡ノートに日々の細かな事を書き込み、業務に反映させている。 | 月1回のミーティングを通じて職員と意見交換し、職員の意見を入居者支援に結び付けている。代表に直接自分の意見を言うような機会は日常的にあり、個人的な相談や支援に関する事等、代表はいつでも職員の意見を聞くよう努め、可能な範囲で運営に反映するよう努めている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員一人一人の努力や勤務状況を把握し、職員全員がやりがい、向上心を持って働ける職場環境作りに努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員一人一人の出来ていない所をその都度アドバイスし、より良いケアが出来るよう努めている。また、職員の希望を聞き、研修に参加しスキルアップの向上に努めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 介護福祉士会やグループホーム連絡協議会の研修会(zoom研修)に参加しネットワーク作りの形成やスキルアップ、サービスの質を向上していく取り組みをしている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 日常生活の中で積極的にコミュニケーションを図り、本人の思いを傾聴している。受容の姿勢で接し信頼関係を築き安心して頂けるよう努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 本人の生活歴や家での様子、家族の要望を聞いている。傾聴し、支援方法や不安な事などを相談しやすい関係づくりに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人の心身の状態や本人、家族の要望を聞いた上で必要としている支援を見極め、本人に合ったサービスを利用できるように努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 本人が出来る事や関心のある事に目を向け洗濯物たたみや料理の下ごしらえ等家事を共に行っている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時等に本人の状況を報告したり、家族からも入所前の状況等を聞き情報交換しながら共に本人を支えていけるようにしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 本人の馴染みの美容室や病院を利用したり、知人と話したい時に電話を利用できるようにしている。 | 職員は入居者の思いを汲み取り、否定せず傾聴する姿勢で日頃から支援するよう努め、墓参りや寺院への参拝を習慣にしていた方の要望にも応じて職員が同行支援を行うなど取り組んでいる。入居前からのかかりつけ医を継続する支援も行っており、入居者のこれまでの生活歴を大切にしながら、馴染みの関係継続の支援に努めている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 性格や相性を理解した上で話しやすい席を設けたりレクリエーション等で利用者同士が共感したり触れ合えるように支援している。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス終了後もこれまでの関係を大切にし相談や支援に努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | これまでの生活歴や本人の希望や想いを傾聴しその人らしい生活を続けられるよう以降の把握に努めている。 | 職員は帰宅願望がある入居者の思いを否定せず、最後まで傾聴し受け止める姿勢で支援に努めている。家族からの食生活に関する要望にも対応するなど、その人らしい生活が送れるよう本人本位の支援に努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 利用者とのコミュニケーション家族からの情報によりこれまでの暮らし方経過等の把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 個人記録やバイタルチェック等で健康面や精神面の要観察を行い現状の把握に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 多面的な視点からケアについて担当職員が聞き取り情報収集し現状に即した介護計画を立案している。 | 職員は入居者との日常会話や、家族面会等で入居者や家族の意向を把握している。日々の記録では特に重要な事項はマーカーで記している。職員間では徹底した情報共有に努めており、日々の記録を基にモニタリングを行い、計画作成担当者が介護計画書のたたき台を作成後、サービス担当者会議で全体で検討を行い、介護計画を作成している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 毎日の記録の中に細やかな気づきや変化利用者の発言を記入し職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに役立てている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 病院受診の順番取り付き添い、夜間の急変時の対応等利用者の状態に応じた支援に取り組んでいる。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 新鮮な野菜を持っていただいたり散歩の際地域の方との交流理容室の訪問や慰問もあり安全で豊かな暮らしが出来るように支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医と連携を深め通院時も看護師や職員が同行し情報交換を行い早めの受診を心掛けている。 | 入居前のかかりつけ医を主治医とし、各入居者の病院受診を支援している。受診への同行は主に代表が早朝から病院に向いてできるだけ早く受診できるよう順番を取り、入居者の排泄事情などといった不安を軽減し、配慮した支援に努めている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護職員が常駐し介護職員と連携を取りやすい環境である。又訪問看護より週一回訪問があり状態の報告等行っている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 家族や病院と連携を取り、退院時もサマリ等を確認し、支援している。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 家族や本人の意向を十分に尊重し、出来る事の説明、方針の共有を行い、施設支援を出来る限り提供できるよう努めている。 | 入居時にホームでの看取り支援について本人や家族にホームの方針を説明している。看取り期となった際には主治医の指示と家族の意向を確認し、医療機関や法人内の他施設へ移設できることなどいくつかの選択肢を家族へ伝えている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時マニュアルを確認し、急変時や事故発生時に備え、実践力を身に付けている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている | 年に2回消防訓練を消防署立ち合いのもと、様々な状況を想定した訓練を実施し消化、避難方法を身に付けている。また、火災等を未然に防ぐよう対策し、指摘されたことは記録し職員間で対応方法を定期的に確認している。 | ホームの近隣にある同法人が運営する小規模多機能型介護施設と合同で、昼間や夜間を想定した避難訓練を実施している。訓練内容、反省点、消防署からの総評や通報、重度化した入居者の避難等、訓練の様子を撮った写真等を記録に残し、次回の避難訓練に繋げている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 人生の先輩である利用者様の人格やプライバシーを尊重し命令や指示的言葉を使わないよう常に心掛けている。 | 職員は入居者を人生の先輩として捉え、言葉遣いに留意している。職員は居室へ入室する際にはノックした後、入居者の反応を確認した上で入室している。年間計画には接遇マナーに関する研修を企画し、受講した職員がホームに持ち帰って他の職員に修得した内容を伝達し共有する等、入居者への尊重、プライバシーの確保に努めている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日頃からのコミュニケーションを大切にし本人が思いや希望を表したり自己決定出来るような言葉かけを心掛けている。また自分で決めることが出来ない方には表情で汲み取っている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 日々どのように過ごしたいか希望に沿ってレクリエーションに参加して頂いたり音楽鑑賞など本人の体調気分にも配慮し本人の希望を大事にしている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 馴染みのある美容室の予約や理容室の来所イベント事には化粧髪型などおしゃれを楽しんでいるまたその時々合った洋服と一緒に選んでいる。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 嗜好調査を行い定期的に好みの確認をしている。利用者と献立を決め料理の下ごしらえを一緒にを行い食事を楽しめる支援に努めている。 | 食事は調理担当3名の職員により昼・夕食の調理を行っている。献立は入居者に食べたいものを聞き取って調理し提供している。食材担当職員が買い物担当(代表)に伝えて購入したり、近隣住民からいただいた差し入れの食材を使用し、季節や旬のものを味わえるよう工夫している。入居時に嗜好・アレルギー調査を行い、把握して提供している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 体重の変化や体調に目を配り一人一人の状態や力に応じた食事形態食事用具を変更し本人に合った食事方法を探し支援している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食後は全員に声掛けし口腔ケアを行っている。自分で出来る所は行って頂き不十分な所は職員が仕上げ磨き舌のチェックを行っている。夜間は義歯洗浄剤を使用している。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 時間誘導を行い排泄記録を残している。排泄パターンを把握し声掛け見守りにて排泄の失敗オムツ使用を減らすよう努めている。 | 入居者ごとの個別の排泄パターンを把握し、各々の排泄時間に応じて職員が声かけや誘導を行っている。パッド等の適切な使用について業者へ相談し、パッドやおむつと等の種類を検討する等、家族への経済的負担を考慮した支援を行っている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 毎日排便の有無をチェックし看護師と相談しながら十分な水分補給や食事おやつを工夫したり毎日ラジオ体操を行っている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 可能な限り一人一人の希望や希望やタイミングに合わせて体調を見ながら入浴を行っている。足浴や入浴剤職員と会話しながらリラックス出来るように支援している。 | ホームは曜日により入浴日を決めているが、本人の意思を確認し希望に応じて曜日を変更したり、職員が時間をおいて再度入浴を促す声をかけ、入居者が楽しみながら入浴できるよう努めている。外気と更衣室の温度差に配慮し、適宜空調調節を行っている。入浴剤を使用し、ゆっくりと入浴ができる環境を整備している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 一人一人に合わせた空間作り空調にも気をつけ馴染みの寝具寝衣で安心して休めるように巡視時も確認している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 看護師に確認したりお薬手帳で理解することで、服薬支援状態の変化の確認に努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 生活歴や個々の力を活かして洗濯物たたみや縫物散策お化粧品やレクリエーション等その時期に応じた作業や役割気分転換の支援を行っている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 家族と協力し食事買い物等の外出初市や花見等希望に添い外出支援を行っている。 | 入居者から行きたい場所などの希望を聞いた際は、実現するよう支援している。寺院や墓参り、買い物等の外出支援や、状況に応じて家族の協力を得て戸外に出かけている。入居者の気分転換やストレス緩和に繋げ、意欲を持ちながらホームの生活を継続できるよう支援に努めている。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金を所持している利用者もいる。本人の意思を尊重し金額が大きな利用者には本人の同意を得た上で金庫で預り必要な時にはだしている。希望があれば職員が同行し買い物へ行きお金を所持したり使えるようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望があれば電話は自由に出来携帯電話を所持されている方もいる。手紙等は職員が代行しポストへ投函する支援をしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居心地の空間作りを心掛け季節の花や掲示板BGMなど五感で感じて頂けるように配慮している。温度温度計を置き快適に過ごせるように空調設定の目安にしましたその日の天気によって照明が明るすぎたり暗すぎたりしないようにしている。 | 職員は朝からホーム全体の掃除機かけやモップかけ等の清掃を徹底して行い、常に清潔保持に心がけている。テーブル上には季節の花をさりげなく飾り、壁には季節ごとに入居者と職員が一緒に作成した壁紙を掲示している。定期的に換気を行い、フロア内にBGMを流し、入居者がゆっくりとした時間を過ごせる環境を整備している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 居室和室リビングを自由に移動出来テレビを見たりゆっくりと話が出来るように居場所の工夫を行っている。また利用者同士の相性を見ながら本氏の同意を得て席替えを行う事もある。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室には利用者の使い慣れた家具やテレビ日用品家具を持参して頂き配置は本氏と御家族に相談しながら配置を行い居心地よく過ごせるように工夫している。 | 入居時に居室への持ち込みについて、火気や刃物以外は持ち込み可能であることを家族へ説明している。居室は視覚障害者の動線を考慮したベッドの配置や、入居者が以前から使い慣れた布団を持ち込んだり、テーブル、テレビ等を置くなど、その人らしい生活を継続できるような環境整備している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 建物内はバリアフリーとなっておりトイレや廊下には手すりがある。トイレにはマークをつけ分かるようにして居室には文字で示し利用者が戸惑わないようにしている。 | | |